

わが街熊谷遺跡めぐり

横間栗遺跡

1 はじめに

よこまくりいせき かごはらえき くしびきだいち
横間栗遺跡は、JR高崎線籠原駅の北北東 2.6 kmに位置し、櫛引台地の北側
の自然堤防上に立地しています。熊谷市教育委員会は、昭和62年(1987)、
衛生センター拡張工事に伴い発掘調査を実施し、平成2年(1990)には国
道17号上武道路建設工事のため埼玉県埋蔵文化財調査事業団が調査を行いま
した。

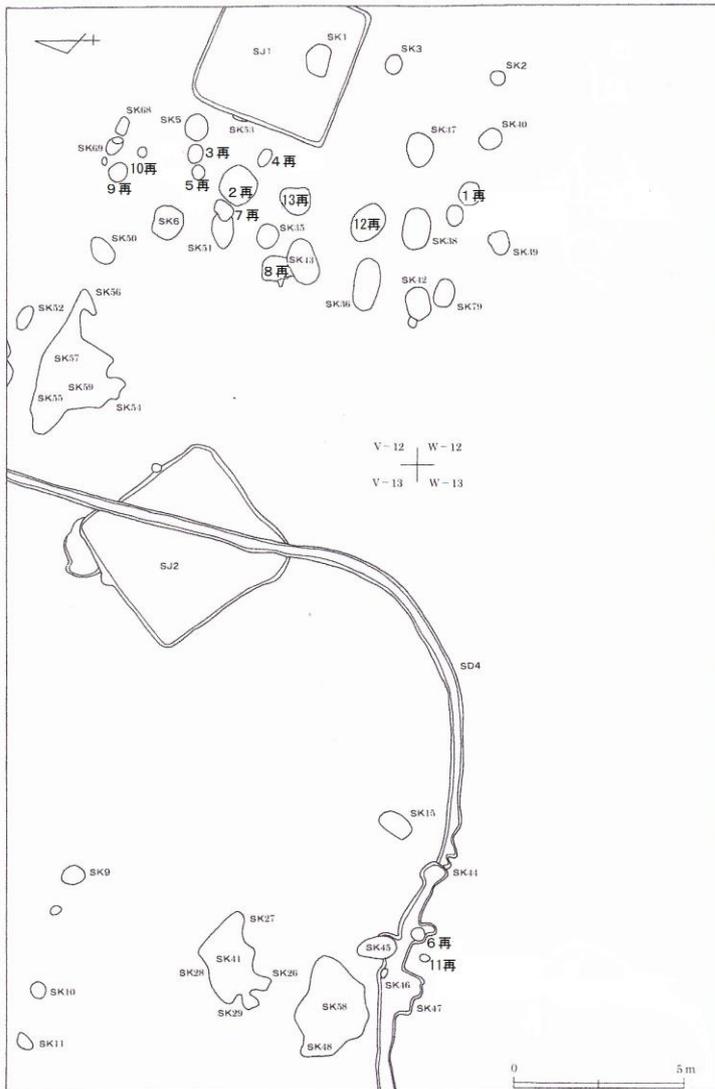
じょうもんじだい えどじだい
縄文時代から江戸時代まで、長期間にわたり営まれた遺跡です。

今回展示しているのは、やよひじだい さいそうぼ
弥生時代の「再葬墓」から出土した土器で、埼玉県
指定文化財となっています。「再葬墓」とは縄文時代から見られ、遺体を埋葬
した後、遺骨をとりあげてつぼ等に収めて再び埋葬する方法を「再葬」とよび、
その墓を「再葬墓」といいます。

1号再葬墓の壺の中からは人骨が残っていて、全国的にも少ないものです。
また、8号再葬墓など大型土器と小型土器が同時に埋葬してあることも本遺跡
の特徴ですが、3号再葬墓は、大型土器の中に、小型土器が入り子状態で出土
していて、注目されています。

横間栗遺跡位置図





再葬墓集中区 平面図

凡例 1再:1号再葬墓
SK1:1号土坑
SJ1:1号住居跡

2 各再葬墓の調査状況

(1) 人骨が発見された再葬墓

1号再葬墓

1号再葬墓は、再葬墓集中区の東南に確認され、墓の上部に川原石が置かれていた状態で発見され、他の再葬墓とは様相が違っていました。

墓の平面形は、大きさ85×75cmの楕円形をしていて、深さ約65cmでした。

大型壺は、写真のとおり墓の東壁側で確認され、直立した状態で出土しました。

人骨は、壺の内外から発見されていて、左右の大腿骨、左右の脛骨、左腓骨、^{だいたいこつ} ^{けいこつ} ^{ひこつ} 肋骨の破片5~6点と鎖骨と思われるものが認められました。この壺の中に収められていた骨は、同一の部分の骨が2個体以上ないので、一人分のものと考

えられます。また、女性の可能性が高く、縄文人的、つまり在来系ざいらいけいの弥生人と考えられています。このように、骨が残っている例は、全国的に見ても少なく、貴重なものです。

1号再葬墓出土状況写真

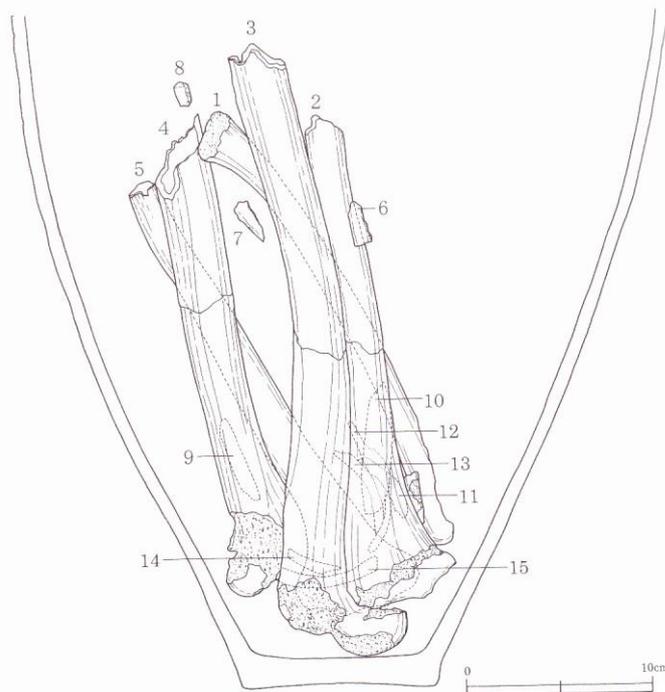


壺内の人骨写真



※上の写真の墓の中で、壺の左側にある墓の底面上にあるものも人骨と考えられる。

壺内の人骨出土状態図



- 1 左腓骨
- 2 左脛骨(近位)
- 3 左大腿骨(近位)
- 4 右大腿骨(近位)
- 5 右脛骨(近位)
- 6~10 不明
- 11~15 肋骨

※きんい近位: 人間や動物の肉体の部位について、何かと比べてより「近い」ところに位置している部位や器官などを指す表現。

(2) 大型土器と小型土器が同時に埋葬されていた再葬墓

8号再葬墓

8号再葬墓は、再葬墓集中区の東側で、1号再葬墓の北西約6mに位置し、墓の平面形は、大きさ86×77cmの楕円形をしていて、深さは約28cmでした。

墓の中には、大型甕^{かめ}が口縁部を東に向け、横位の状態で確認され、大型甕の上には小型甕、小型鉢^{はち}、そして2点の小型壺が横位の状態で確認されました。

大型甕の中から2点の欠けた管玉^{くだたま こっぺん}と骨片、小礫^{しょうれき}が発見され、墓の底からも1点の欠けた管玉と骨片や小礫が出土しました。

8号再葬墓出土土器写真

左から小型甕、小型鉢、大型甕
小型壺、小型壺



3号再葬墓

3号再葬墓は、再葬墓集中区の東側で、8号再葬墓の北西約4mに位置し、墓の平面形は、大きさ60×52cmの楕円形をしていて、深さ約30cmでした。

墓の中には、大型壺が西向きに倒れた状態確認され、この大型壺の中から小型の丸底壺、小型壺、ひょうたん形の小型壺が発見されました。大型壺は、当初から肩部より上部は欠損していて、細片となっていました。管玉も大型壺から出土しました。

3号再葬墓出土状況写真

大型壺の中にある小型壺は、
左から、小型丸底壺、小型壺
(ひょうたん形)、小型壺



平成27年6月16日発行

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係)

— わが街熊谷遺跡めぐり — 横間栗遺跡 テーマ展解説書 第20集